取扱説明書

ポータブルアンプ　KZ-25

スピーカ

本　体

このたびは、TOA ポータブルアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA株式会社

目　次

安全上のご注意 …… 3
電源コードの取り扱いについて …… 5
上手にお使いいただくために …… 5
各部の名称とはたらき
　前　面 …… 6
　後　面 …… 7
接続のしかた …… 8
スピーカスタンド金具の取り付けかた …… 9
CD プレーヤの使いかた
　各部の名称とはたらき …… 10
　メモリ機能について …… 11
　一曲再生のしかた …… 12
　メモリと一曲再生の上手な使いかた …… 12
　コンパクトディスクの取り扱いかた …… 14
　メッセージ表示について …… 15
有線マイクの使いかた …… 15
ワイヤレスマイクの使いかた …… 16
　800 MHz 帯ワイヤレスマイクロホンのチャンネル呼称について …… 17
　周波数の設定のしかた …… 17
　チューナユニットの増設のしかた …… 19
　トーンスイッチについて …… 20
カセットデッキの使いかた
　各部の名称とはたらき …… 21
　再生のしかた …… 22
　巻き戻しと早送りのしかた …… 23
　録音のしかた …… 24
　頭出し選曲のしかた …… 25
　走行モードについて …… 26
お手入れのしかた …… 27
カセットテープについて …… 28
著作権について …… 29
故障とお考えになる前に …… 30
仕　様 …… 32
　付属品 …… 32

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

注意を促す記号	行為を禁止する記号		行為を強制する記号
注　意	分解禁止	禁　止	電源プラグを抜け

警告　誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷に結びつく可能性のあるもの。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

注　意

誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷に結びつく可能性のあるもの。

使用するとき

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

内部に異物を入れない

本機の通風孔やカセット挿入口（カセットプレーヤ）などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落し込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

誤った取り扱いをしたとき、人が傷害または物的損害に結びつく可能性のあるもの。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁　止

設置場所に注意

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

本機を通路などに置かない

通路など、人が足を引っ掛ける可能性がある場所には置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

誤った取り扱いをしたとき、人が傷害または物的損害に結びつく可能性のあるもの。

使用するとき

上に重いものを置かない
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

禁 止

電源を入れる前には音量を最小に
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

注 意

長時間、音が歪んだ状態で使わない
スピーカが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁 止

電源プラグやコンセント部の掃除を
電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

注 意

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意
お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

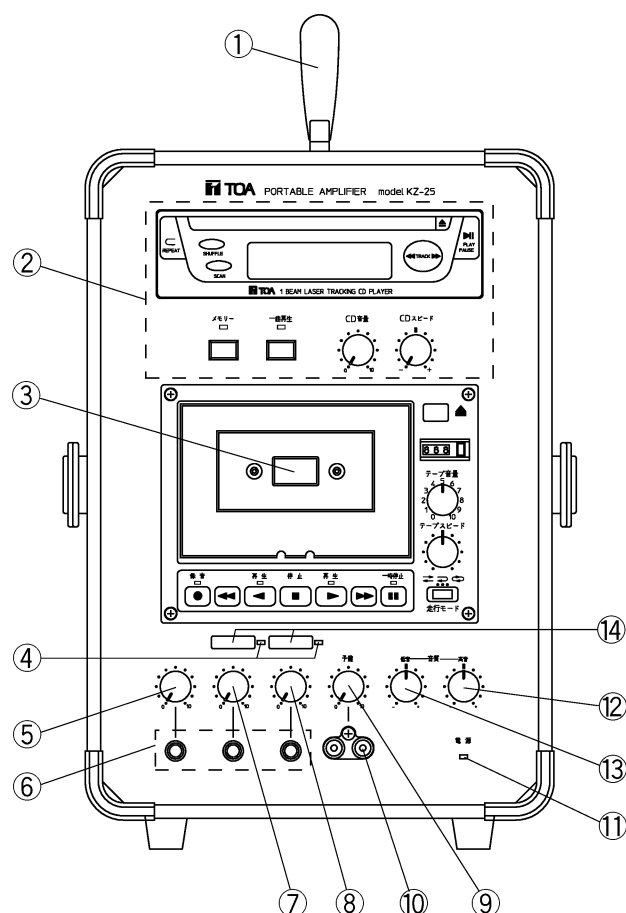
電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、本機専用品です。
本機以外の機器に使用しないでください。

上手にお使いいただくために

- 正面（スピーカのある面）を聞き手の方向に向けて設置すると、ハウリングが起こりにくくなります。
  ハウリングが起きるときは、マイクをスピーカから離すか、音量を下げて使用してください。
- 床面よりも机の上など少し高い位置に設置した方がスピーカからの音が明瞭に聞こえます。また、ワイヤレスマイクもより遠くまで使用することができます。
- ワイヤレスマイクを移動しながら使用すると、電波の反射や干渉によってデッドポイントと呼ばれる、急に音がとぎれる場所が発生することがあります。
  デッドポイントを解消するためには、本機を壁や机から離すか、設置場所を１～２ｍ動かしてください。
- 混信が発生したりワイヤレスマイクの電波が届きにくかったりすることがありますので、蛍光灯やパソコンなどの高周波雑音を発生する機器から本機を離して設置してください。
- ワイヤレスマイクと本機はなるべく３ｍ以上離して使用してください。
  ３ｍ以内で使用すると、雑音が発生したり混信の原因になったりすることがあります。
- 保管するとき、自動車のトランクや荷台に積み込んで移動するときは、必ず本体のハンドルが上になるようにしてください。CD プレーヤが正常に動かなくなったり音飛びの原因になったりします。
- 清掃は必ず電源を切ってから、乾いたやわらかい布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。
  ベンジン・シンナー・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形、変色の原因となります。

各部の名称とはたらき

［前面］

① ハンドル
持ち運びのときに使用します。

ご注意
このハンドルは、本機を運ぶときにだけ使用するものです。このハンドルで本機を吊り下げるような設置は絶対にしないでください。

② CD プレーヤユニット
操作方法は「CD プレーヤの使いかた」（ ☞ P. 10）をお読みください。

③ カセットデッキ
操作方法は「カセットデッキの使いかた」（ ☞ P. 21）をお読みください。

④ ワイヤレス受信表示ランプ
ワイヤレスマイクの電波を受信すると点灯します。

⑤ マイク 1 音量つまみ［マイク 1］
マイク 1 入力ジャック⑥に接続された有線マイクロホンの音量を調節します。

⑥ マイク 1、2、3 入力ジャック
有線マイクロホンを接続します。
適合マイクロホン：600 Ω、−50 dB、不平衡

⑦ マイク 2 ／ワイヤレス 1 音量つまみ
［マイク 2 ／ワイヤレス 1］
マイク 2 入力ジャック⑥に接続された有線マイクロホンまたはワイヤレスマイク 1 の音量を調節します。

※ ワイヤレスチューナは別売品です。

⑧ ワイヤレス 2 ／マイク 3 音量つまみ
［ワイヤレス 2 ／マイク 3］
ワイヤレスマイク 2 またはマイク 3 入力ジャック⑥に接続された有線マイクロホンの音量を調節します。

※ ワイヤレスチューナは内蔵されています。

ご注意
ワイヤレスマイク（別売）と内蔵のワイヤレスチューナのグループチャンネルを合わせてください。
詳しくは「周波数の設定のしかた」（ ☞ P. 17）をお読みください。

⑨ 予備入力音量つまみ［予備］
予備入力に接続した機器の音量を調節します。

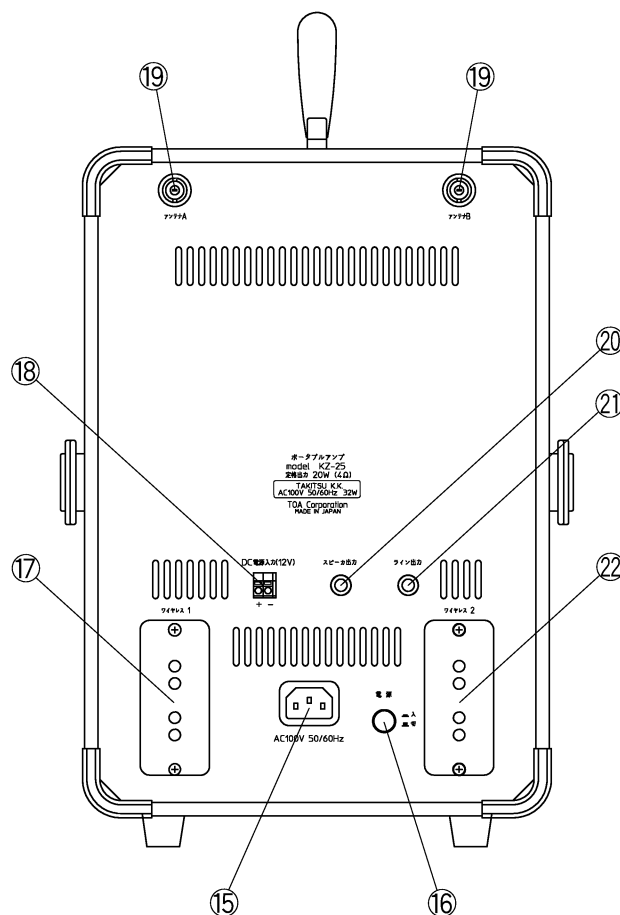
⑩ 予備入力
ポータブル MD プレーヤ、ラジカセなどを接続します。
ステレオで接続してください。内部でミキシングしてモノラルにします。
（RCA ピンジャック×2、10 kΩ 不平衡、−20 dBV）

⑪ 電源表示灯［電源］
電源が入ると点灯します。

⑫ 高音音質調節つまみ［高音］
高音が左に回すと減衰し、右に回すと増強されます。

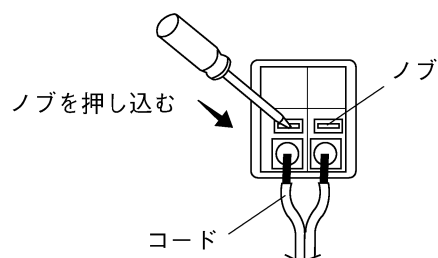
⑬ 低音音質調節つまみ［低音］
低音が左に回すと減衰し、右に回すと増強されます。

⑭ カラーマーク貼り付け位置
使用するワイヤレスマイクと同じカラーマークを貼ってください。

［後面］

⑮ AC 電源インレット
付属の電源コードをしっかり差し込んでから電源プラグをコンセントに接続してください。

⑯ 電源スイッチ
「入（ ▬ ）」にすると電源が入り、「切（ ■ ）」にすると電源が切れます。

⑰ ワイヤレスチューナ収納部（ワイヤレス１）
ワイヤレス１のチューナは別売品です。適合するワイヤレスチューナは、WTU-1820 ダイバーシティチューナユニットです。

⑱ DC 電源入力端子
外部電源（DC 12V）を接続してください。
小型のマイナスドライバでノブを押し込んで、穴にコードを下図のように差し込んでください。

⑲ ワイヤレスアンテナソケット
付属のアンテナ２本を必ず取り付けてください。

ご注意
ワイヤレスアンテナを１本だけ取り付けて使用すると、ワイヤレスマイクの音声が途切れたり通達距離が極端に短くなったりすることがあります。

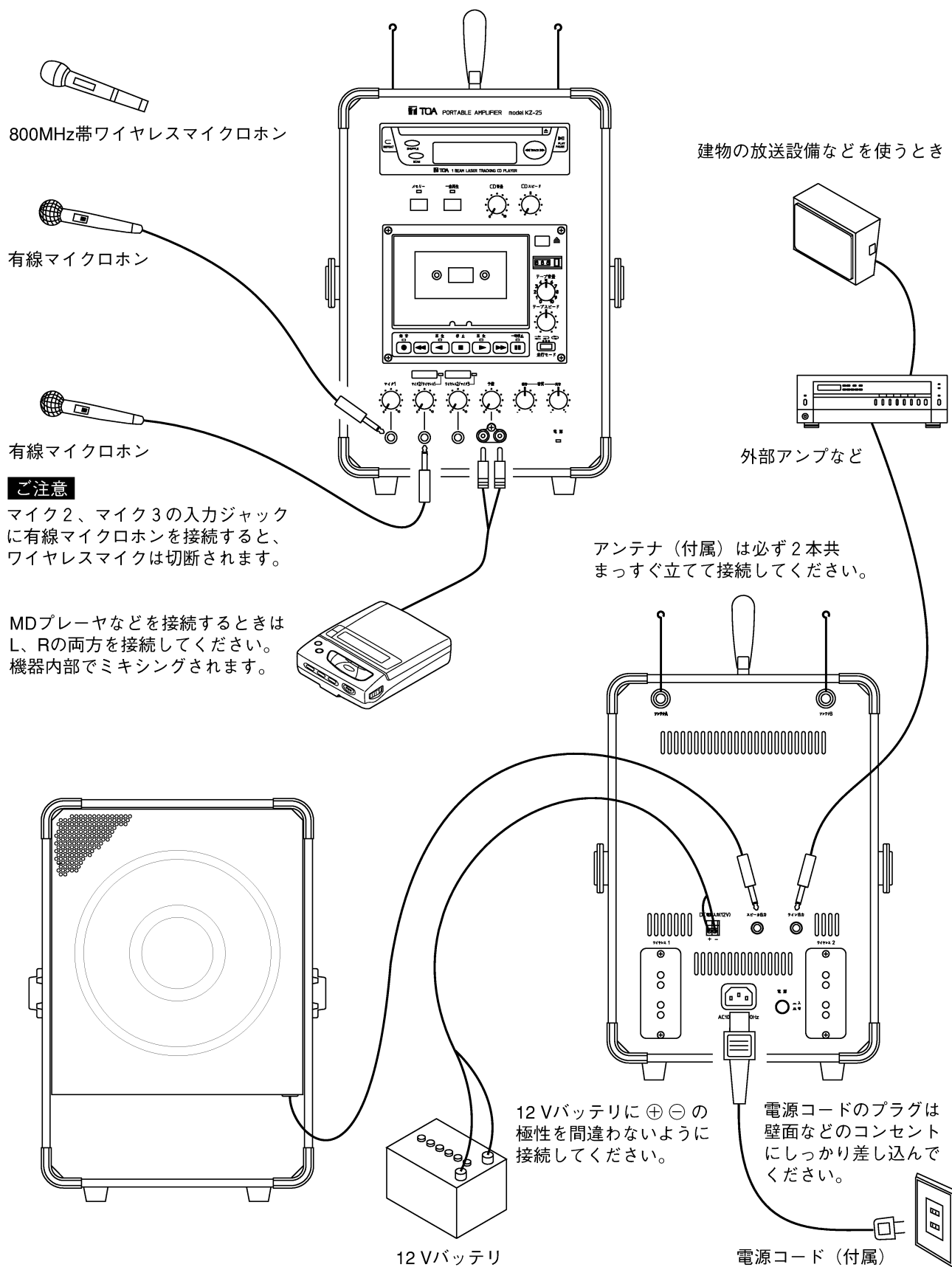
⑳ スピーカジャック
スピーカコードのプラグを接続してください。

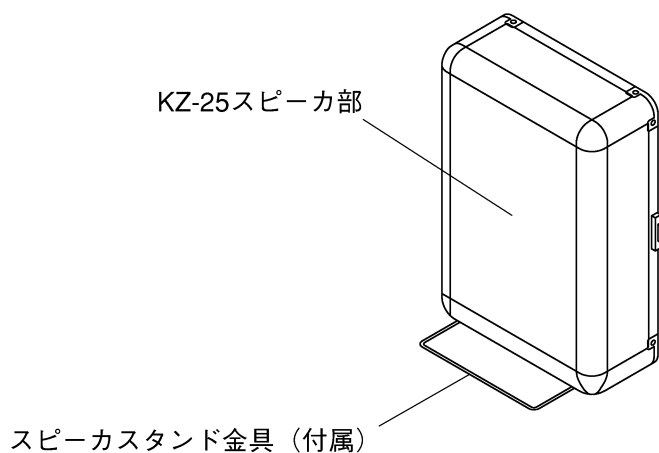
㉑ ライン出力ジャック
他の放送設備を使って本機の信号を放送したいときは他の設備のパワーアンプ（電力増幅器）の入力端子をこのジャックに接続してください。

㉒ ワイヤレスチューナ収納部（ワイヤレス２）
ワイヤレス２のチューナは内蔵されています。

ご注意
別売のワイヤレスマイクと内蔵ワイヤレスチューナのグループ、チャンネルを合わせてください。
詳しくは「周波数の設定のしかた」（ ☞ P. 17）をお読みください。

接続のしかた

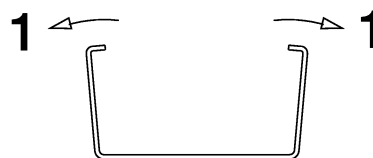
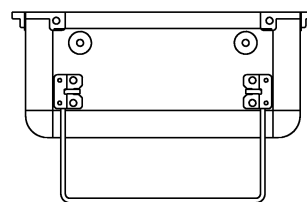
800MHz帯ワイヤレスマイクロホン
有線マイクロホン
有線マイクロホン
ご注意
マイク２、マイク３の入力ジャックに有線マイクロホンを接続すると、ワイヤレスマイクは切断されます。
MDプレーヤなどを接続するときはL、Rの両方を接続してください。機器内部でミキシングされます。
建物の放送設備などを使うとき
外部アンプなど
アンテナ（付属）は必ず２本共まっすぐ立てて接続してください。
12 Vバッテリに ⊕ ⊖ の極性を間違わないように接続してください。
電源コードのプラグは壁面などのコンセントにしっかり差し込んでください。
12 Vバッテリ
電源コード（付属）
TOA PORTABLE AMPLIFIER model KZ-25

スピーカスタンド金具の取り付けかた

● 取り付け完成図

● 取り付けかた

1. 付属のスピーカスタンド金具を矢印の方向に少し広げます。

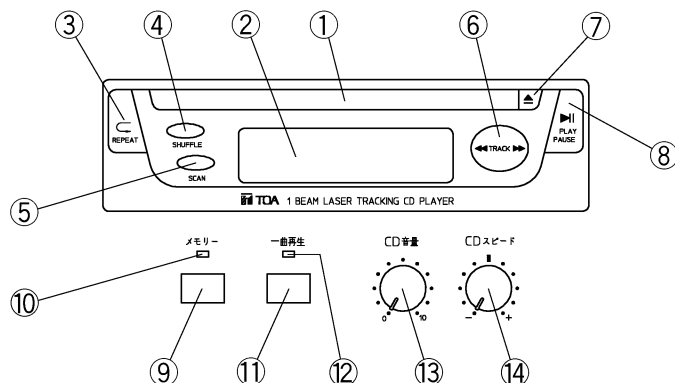
2. スピーカスタンド金具を広げたまま、スピーカ部底面にある金具の穴に差し込みます。

※ スピーカを自立させることができます。

※ 使用後は同様にスピーカスタンド金具を少し広げて外します。

ご注意

金具の取り付けや取り外しのときは、金具に指をはさまないように注意してください。

CDプレーヤの使いかた

■ 各部の名称とはたらき

① ディスク挿入口
ディスクの印刷面を上にして入れてください。
自動的に収納し、1曲目の初めから演奏を開始します。

② 表示部
「表示部の見かた」（☞P. 11）をお読みください。

③ リピートボタン［REPEAT］
このボタンを押すと、すべての曲を順々に連続演奏します。もう一度押すと、リピートを解除します。

④ シャッフルボタン［SHUFFLE］
演奏中のディスクのすべての曲を順序不同で連続演奏します。

⑤ スキャンボタン［SCAN］
このボタンを押すと、曲の初めを順々に10秒間演奏します。もう一度押すと、スキャンを解除します。

⑥ トラックスキップボタン［◀◀TRACK▶▶］
演奏したい曲を選びます。演奏中にこのボタンを押し続けると早送り（▶▶）または早戻し（◀◀）をします。

メ　モ

ディスクが入っている状態で電源を入れたときは、トラックスキップボタンははたらきません。一度、プレイ・ポーズボタン⑧を押して再生させた後に、トラックスキップボタンを押してください。

⑦ イジェクトボタン［▲］
このボタンを押して、ディスクを取り出します。

⑧ プレイ・ポーズボタン［▶II PLAY PAUSE］
CD演奏中にこのボタンを押すと、ポーズ（一時停止）状態になります。ポーズ状態でこのボタンを押すと、ポーズされた位置から演奏を再開します。

⑨ メモリボタン［メモリー］
曲の任意の位置をメモリ（記憶）することができます。

⑩ メモリ表示灯［メモリー］
メモリ機能が働いているときに点灯します。

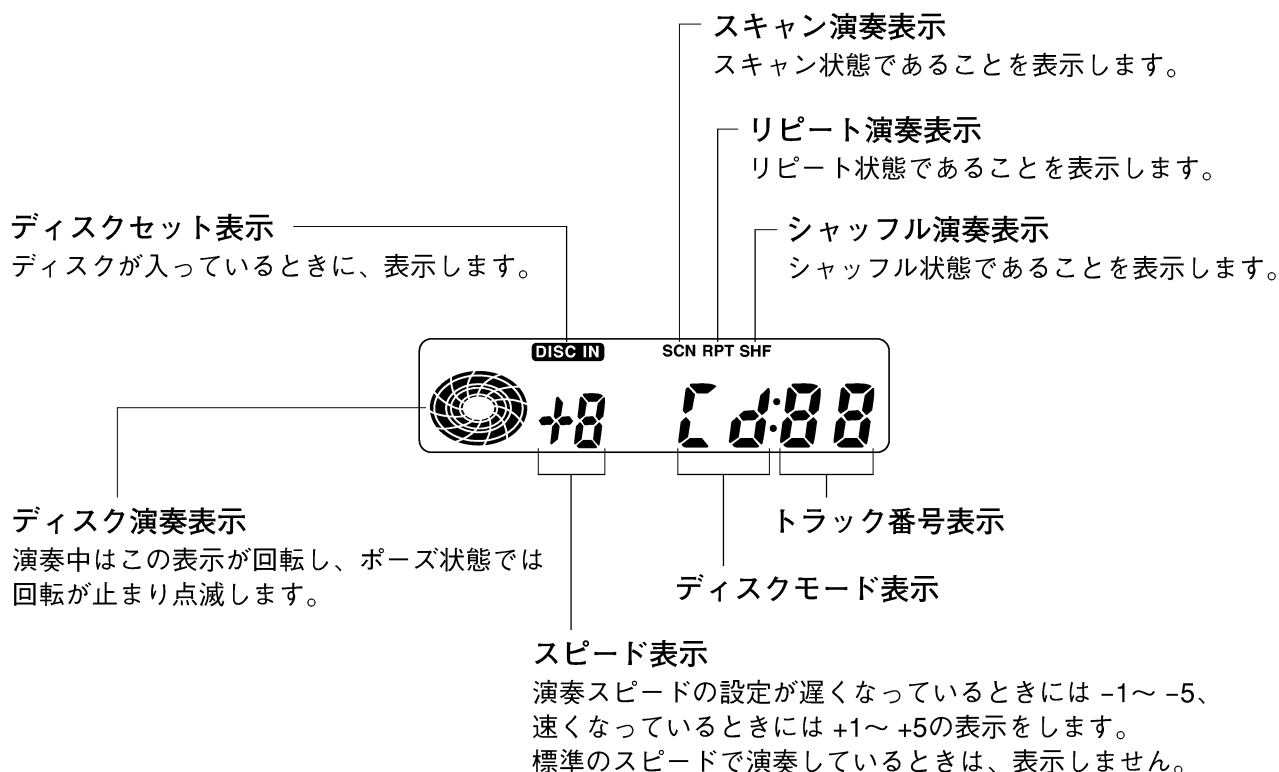
⑪ 一曲再生ボタン［一曲再生］
このボタンを押すと、演奏中の曲の終りで止まり、プレイボタンを押すとその曲の初めから演奏を開始します。

⑫ 一曲再生表示灯［一曲再生］
一曲再生の機能が働いているときに点灯します。

⑬ CDプレーヤ音量つまみ［CD音量］
CDプレーヤで演奏している音量を調節します。

⑭ CDスピード調節つまみ［CDスピード］
CDの演奏スピードを11段階に変化させることができます。

- 中央のクリック位置で基準スピードとなります。（スピード表示はしません。）
- 「－」側に回すと、スピード表示が－1～－5まで変化し、演奏は5段階に遅くなります。
- 「＋」側に回すと、スピード表示が+1～+5まで変化し、演奏は5段階に速くなります。

● 表示部の見かた

■ メモリ機能について

● CDの演奏を開始する位置をメモリ(記憶)することでメモリセットができます。
CDの任意の位置から繰り返し演奏したいときなどに使います。

● メモリセットのしかた
曲の演奏中にメモリしたい位置でメモリボタン⑨を押します。
メモリ表示灯⑩が点灯します。（メモリセットが完了しました。）

● 演奏の途中で止めて、メモリ位置から演奏をしたいとき
演奏を止めたい位置でプレイ・ポーズボタン⑧を押します。
メモリ位置から演奏を始めたいときに、トラックスキップボタン⑥の「◀◀」マークを押すと、メモリ位置から演奏を開始します。

● メモリ位置に戻してすぐに演奏を開始したいとき
メモリセットがされた状態でトラックスキップボタン⑥の「◀◀」マークを押すと、メモリ位置まで早戻しされて、すぐにその位置から演奏を開始します。

● メモリ解除のしかた
メモリボタン⑨をもう一度押します。
メモリ表示灯⑩が消灯します。（メモリが解除されました。）

● メモリ位置を変更するとき
メモリ解除した後、再度メモリセットをします。

ご注意
イジェクトボタン⑦を押してCDを取り出したり、電源を切ったりするとメモリは解除されます。

■ 一曲再生のしかた

1曲だけ演奏して停止させたいときに使います。
一曲再生セットがされていると、表示されているCDのトラック（曲）だけを演奏して停止します。

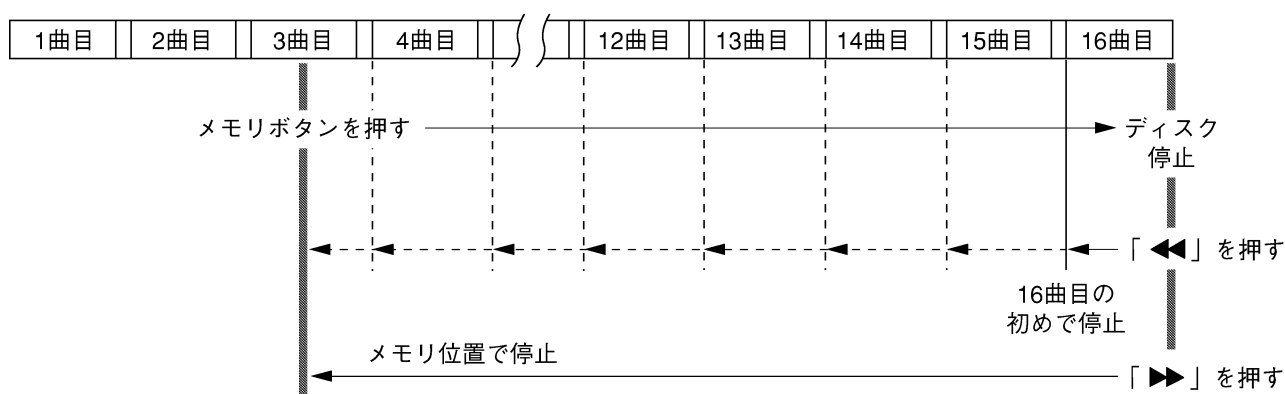
● 一曲再生セットのしかた
演奏したい1曲だけを選んで、一曲再生ボタン⑪を押します。
1曲再生表示灯⑫が点灯します。（一曲再生セットが完了しました。）

● 一曲再生セットが完了し、演奏が終わったときにプレイ・ポーズボタン⑧を押すと、セットされた曲の初めから演奏します。

● 一曲再生解除のしかた
一曲再生ボタン⑪をもう一度押します。
一曲再生表示灯が消灯します。（一曲再生が解除されました。）

● 一曲再生セット曲を変更するとき
一曲再生セットが完了している状態で、トラックスキップボタン⑥の「 ▶▶ 」または「 ◀◀ 」マークを押して演奏したい曲を選んでください。

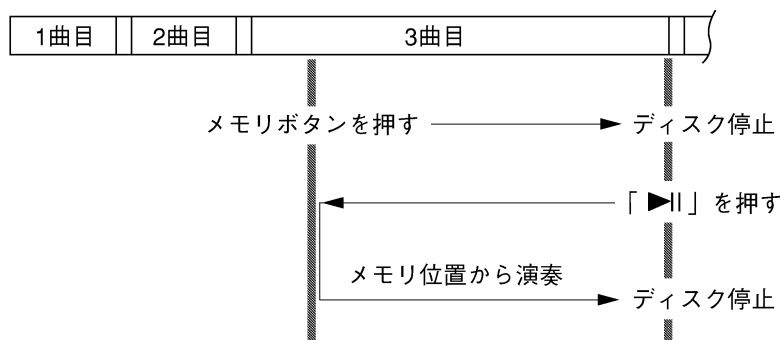
■ メモリと一曲再生の上手な使いかた

● メモリセットのとき

● たとえば、3曲目演奏中の任意のところでメモリボタン⑨を押すと、その位置はメモリされますが、曲は引き続き順次演奏され最後（16曲目の終わり）で停止します。

● トラックスキップボタン⑥の ◀◀ を連続して押すと、1曲ずつ戻り3曲目のメモリ位置で停止します。
また、トラックスキップボタン⑥の ▶▶ を押すと、メモリ位置にダイレクトに戻り停止します。

● プレイ・ポーズボタン⑧を押すと、メモリされた位置から演奏を始めます。

● メモリセット、一曲再生のとき

たとえば、3曲目の任意の位置から繰り返し演奏をさせたい場合

- 一曲再生ボタン⑪を押して、一曲再生表示灯⑫が点灯していることを確認してから、トラックスキップボタン⑥で3曲目を選択します。

- 3曲目の任意の位置でメモリボタン⑨を押します。メモリ表示灯⑩が点灯し、メモリセットが完了します。

- 3曲目の終わりで演奏が停止します。

- プレイ・ポーズボタン⑧を押すと、メモリ位置から演奏を始めます。

CDプレーヤをお使いになる前に

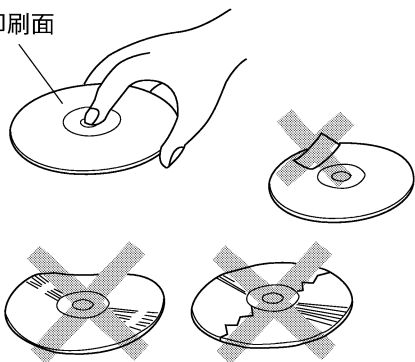
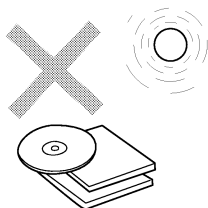
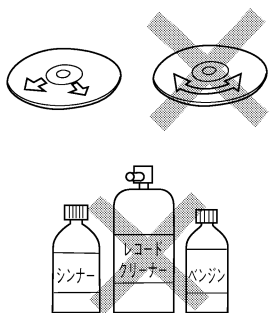
本機は COMPACT disc DIGITAL AUDIO のマークが表示してあるコンパクトディスク以外は使えません。

取り扱い上のご注意

- 冷えた場所から急に温度が高くなる場所に移動し、すぐに本機を使用すると、ディスクや光学部品に細かな水滴が付いてくもり、正常な動作をしないことがあります。ディスクがくもっているときは、柔らかい布で拭いてください。光学部品がくもっているときは、約1時間放置しておくと自然にくもりがとれて、正常に動作します。
- 本機は水平な場所でご使用ください。傾けた状態で使用すると、正常な動作をしないことがあります。また、内部のメカニズムが引っ掛かったり、ディスクに傷を付けたりすることがあります。
- ディスクを出し入れするときは、ディスク挿入口に無理な力をかけないでください。本機故障の原因となったり、ディスクに傷を付けたりすることがあります。
- ディスクを入れたまま電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたり、DC電源の電圧が低下（10V以下）したりすると、ディスクが取り出せません。そのときは、電源プラグを差し込み（DC動作のときは、バッテリを交換して）、電源スイッチを入れ、イジェクトボタンを押してディスクを取り出してください。
- 本機にディスクが入った状態で電源を入れても、ディスクの演奏を行いません。演奏を始めるときは、プレイ・ポーズボタンを押してください。（1曲目から演奏を始めます。）
- CDプレーヤは精密機器です。本機を移動するときは、必ずディスクを取り出してください。
- ディスクを入れた状態では内部機構（メカニズム）はロックされませんので、衝撃などでCDプレーヤが壊れることがあります。

■ コンパクトディスクの取り扱いかた

コンパクトディスクの汚れ、ごみ、傷、そりなどが音飛びや音質の低下など誤動作の原因となることがあります。美しい音で楽しめるよう次のことにご注意ください。

左記マークの付いているコンパクトディスクをご使用ください。

- ディスクを持つときは、演奏面をできるだけさわらないようにしてください。
- 印刷面や演奏面に、紙やシールなどを貼り付けたり傷を付けたりしないようにしてください。
- セロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、はがしたりしたあとがあるディスクは使用しないでください。ディスクが取り出せなくなったり本機が故障したりする原因となることがあります。
- 演奏中のディスクは高速回転しますので、ひびの入ったディスクや大きくそったディスクは使用しないでください。

- そらないように必ずケースに入れ、直射日光の当たる場所には保管しないでください。特に夏期、直射日光下で閉めきった車の中などは、かなり高温になりますので放置しないでください。

- 使用する前に演奏面に付いたほこり、ごみ、指紋などを柔らかい布でディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。
- レコードスプレー、帯電防止剤などは使用しないでください。またベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品をかけるとディスクを傷めることがありますので使用しないでください。

12 cm CDと8 cm CDについて

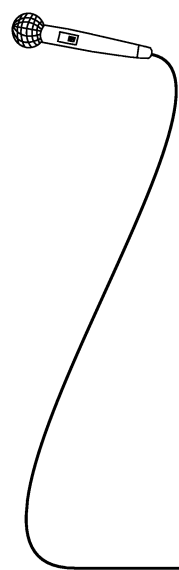
コンパクトディスクには、直径の大きさにより12 cmタイプと8 cmタイプの2種類があります。
本機では、8 cm CDも12 cm CDと同様に、そのまま挿入してください。
8 cm CDアダプタは必要ありません。8 cm CDアダプタを使用すると、故障の原因となります。

■ メッセージ表示について

本機の操作中に、次のようなメッセージ表示が表示部に出ることがあります。
それぞれの処置に従ってください。

表　示	原　因	処　置
E:07	ディスクが逆にセットされている。	ディスクを正しくセットしてください。
	ディスクが汚れている。	ディスクの汚れを拭き取ってください。
	結露している。	ディスクを取り出して、本機をしばらく放置してからご使用ください。
E:30	本機内部の温度上昇を感知。	周囲の温度を下げてからご使用ください。

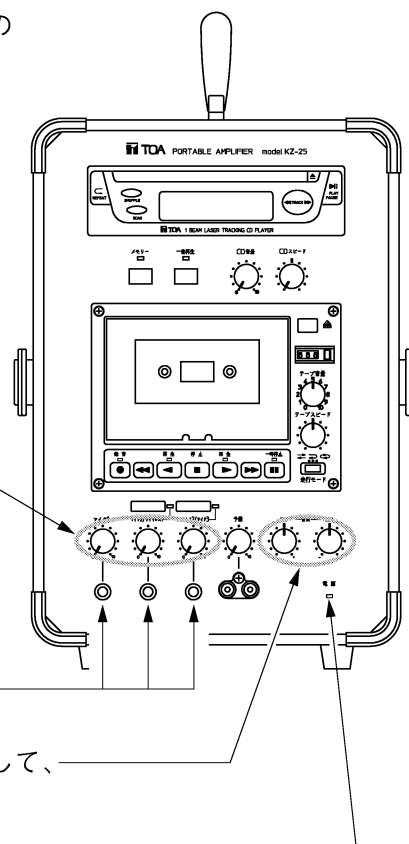
有線マイクの使いかた

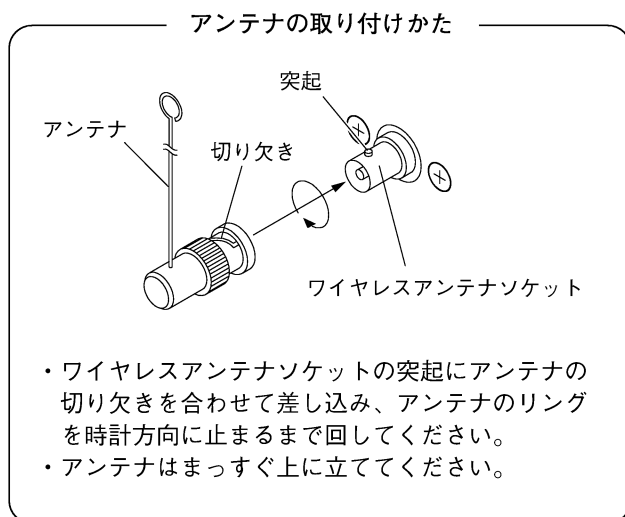
1. 有線マイクロホンをマイク1、マイク2、またはマイク3の入力端子に接続してください。

メ　モ

マイク２、マイク３の入力ジャックに有線マイクロホンを接続すると、ワイヤレスマイクは切断されます。

3. 接続したマイクロホンに対応した音量つまみを回して音量を調節してください。

4. 高音と低音の音質調節つまみを回して、お好みの音質に調節してください。

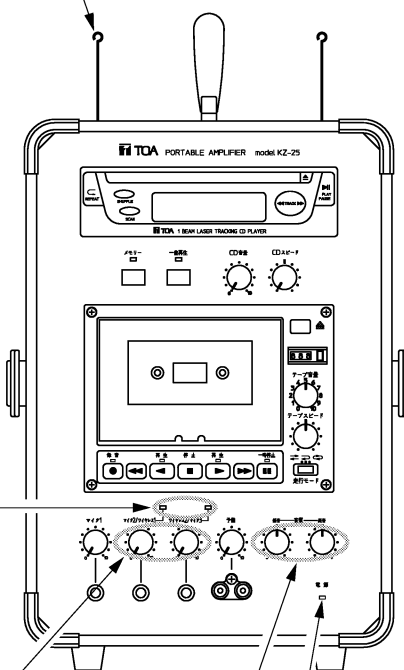
2. 電源スイッチ（後面）を入れ、電源表示灯（前面）が点灯していることを確かめてください。

ワイヤレスマイクの使いかた

1. 付属のアンテナを後面のワイヤレスアンテナソケットに、必ず2本共取り付けてください。

3. ワイヤレスマイク（別売）の電源スイッチを入れてください。
ワイヤレス受信表示ランプが点灯します。

※ ワイヤレス2のチューナは内蔵していますが、ワイヤレス1のチューナは別売品です。

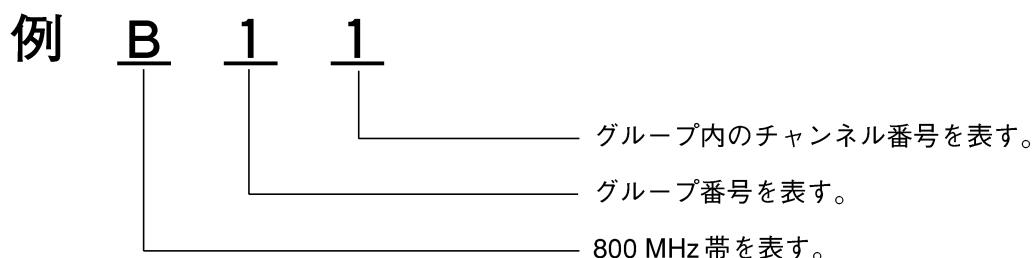
4. ワイヤレス2またはワイヤレス1の音量つまみを回して音量を調節します。

5. 高音と低音の音質調節つまみを回して、お好みの音質に調節してください。

2. 電源スイッチ（後面）を入れ、電源表示灯（前面）が点灯していることを確かめてください。

ご注意

- ワイヤレスマイクは800 MHz帯B型ワイヤレスマイクを使用してください。
- ワイヤレス2のチューナユニットのグループとチャンネルは、工場出荷時にチャンネル呼称B11に設定されています。
- ワイヤレスマイク1とワイヤレスマイク2は同一グループの異なるチャンネルに設定してください。同じチャンネルにすると混信や異音の原因になります。
- 同じチャンネル呼称のマイクは同時に使用できません。
- 同一場所での同時使用は、グループ番号が同じマイクロホンに限って最大6チャンネルまでできます。
  (ポータブルアンプにはその中の2つのチャンネルを設定します。)
- ポータブルアンプとワイヤレスマイクの距離は3 mから20 m程度で使用してください。
- 3 m以内で使用すると雑音を発生したり、混信の原因になることがあります。
- 2つの異なるチャンネルを同時に使用するとき、2つのマイク間の距離は50 cm以上離してください。
- ポータブルアンプの電源スイッチを「入」にして、ワイヤレスマイクの電源を入れる前にポータブルアンプの受信表示ランプが点灯するときは、設定されたチャンネルが使用中です。他のチャンネルに変更してください。
- シンセサイザ方式のワイヤレスマイクおよびチューナユニットは、混信妨害を受ける場合、トーン周波数を変えることで影響を軽減することができます。詳しくは「トーンスイッチについて」（☞ P. 20）をご覧ください。このとき組み合わせるワイヤレスマイクのトーンスイッチも変更が必要ですので、ワイヤレスマイクの取扱説明書も併せてご覧ください。

■ 800 MHz帯ワイヤレスマイクロホンのチャンネル呼称について

チャンネル呼称の説明

■ 周波数の設定のしかた

本機のチューナユニットはあらかじめチャンネル呼称B11に設定されています。チューナユニットを増設したり、使用中に混信妨害が発生したときには異なるチャンネルを設定してください。設定方法は以下のとおりです。
グループおよびチャンネルを設定するときは、必ず本体の電源スイッチを「切」にしてから行ってください。

1. 次ページの周波数表をもとに、設定するグループとチャンネル番号を決めてください。

ご注意

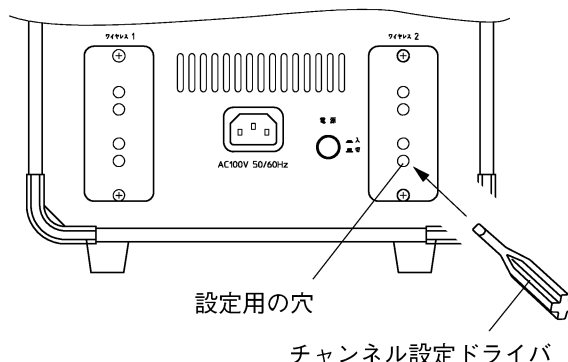
ワイヤレスマイクを同時に2本使用するときは必ず、同じグループの中から異なるチャンネルを選んでください。

周波数表

グループ	チャンネル	呼称	周波数（MHz）	グループ	チャンネル	呼称	周波数（MHz）	グループ	チャンネル	呼称	周波数（MHz）
1	1	B11	806.125	3	1	B31	806.625	5	1	B51	807.625
	2	B12	806.375		2	B32	806.875		2	B52	808.125
	3	B13	807.125		3	B33	807.375		3	B53	808.375
	4	B14	807.750		4	B34	808.250		4	B54	808.750
	5	B15	809.000		5	B35	808.625		5	B55	809.625
	6	B16	809.500		6	B36	809.250	6	1	B61	807.250
2	1	B21	806.250	4	1	B41	806.750				
	2	B22	806.500		2	B42	807.500				
	3	B23	807.000		3	B43	808.000				
	4	B24	807.875		4	B44	809.125				
	5	B25	808.500		5	B45	809.375				
	6	B26	808.875		6	B46	809.750				

2. 本体または増設チューナユニットに付属のチャンネル設定ドライバを用いて、設定スイッチの矢印をあらかじめ決めたグループおよびチャンネル番号の数字に設定してください。

※ ワイヤレス１は、ワイヤレスチューナ増設用です。

※ ワイヤレス２は、標準でワイヤレスチューナを装着しており、出荷時点で B11 に設定しています。

ご注意

増設したチューナユニットのグループ番号は、ワイヤレス２のチューナユニットと同じ番号に設定してください。チャンネル番号は、異なる番号に設定してください。

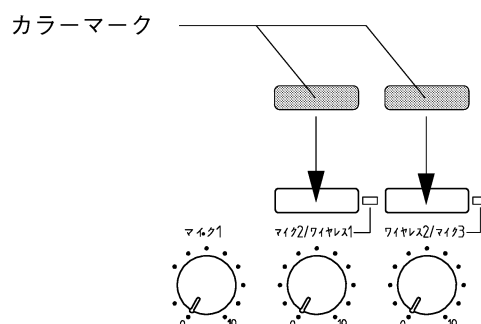
3. ワイヤレスマイクのグループおよびチャンネル番号を、チューナユニットと同じグループおよびチャンネル番号に設定してください。

ご注意

ワイヤレスマイクに付属の設定ドライバで、設定スイッチの矢印をチューナユニットと同じグループおよびチャンネル番号の数字に設定してください。詳しくは、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

4. 音量つまみの上部にあるカラーマーク貼付位置に、ワイヤレスマイクと同じ色のカラーマークを貼ってください。

メ　モ

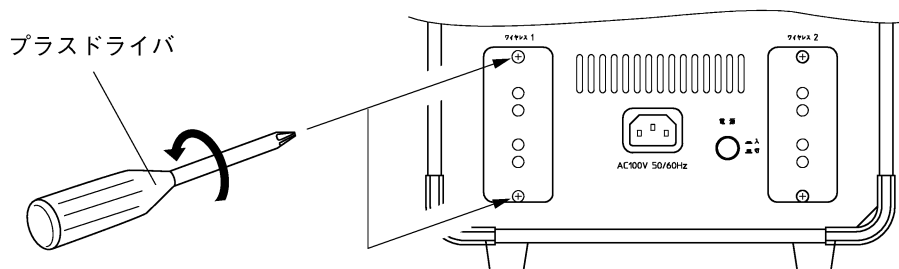
チューナユニット収納部の「ワイヤレス１」は音量つまみ上部の「マイク２／ワイヤレス１」に、「ワイヤレス２」は「ワイヤレス２／マイク３」に対応しています。

■ チューナユニットの増設のしかた

増設チューナユニットは、ダイバシティチューナユニットWTU-1820を使用してください。

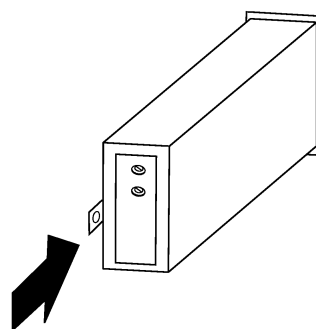
メ　モ

シングルチューナユニットWTU-1720とダイバシティチューナユニットWTU-1820は同じ大きさですので、間違えないようにしてください。

1. 電源スイッチを「切」にしてください。

2. 収納ふたを外してください。

3. チューナユニットを下図のように挿入し、奥のコネクタに確実に差し込んでください。

ご注意

チューナユニットの上下を間違えないようにご注意ください。

4. チューナユニット装着後は、収納ふたを元どおりに取り付けてください。

ご注意

収納ふたを取り付けないと、チューナユニットが外れることがあります。

5. チューナユニットの周波数の設定は、「周波数の設定のしかた」（ ☞ P. 17）をご覧ください。

■ トーンスイッチについて

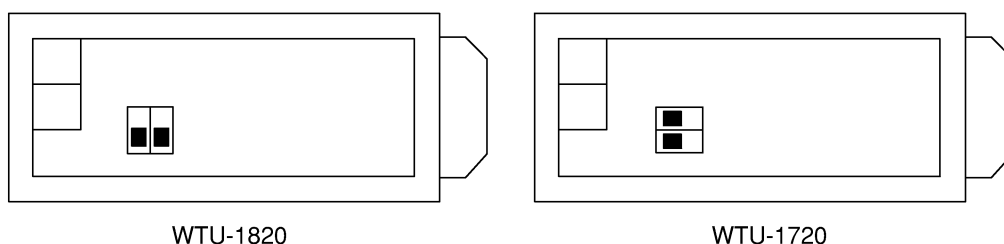
このスイッチ設定を変更するときには販売店にご相談ください。

● 「トーン」のはたらき

ワイヤレスマイクの電源が入っていないときや、ワイヤレスマイクの電源は入っていても妨害電波が強いときに、ワイヤレスアンプから妨害電波の信号や雑音が聞こえることがあります。
この対策として、トーン信号の含まれていないワイヤレスマイクの電波は、音声を出力しないようにしています。シンセサイザ方式のワイヤレスマイクおよびチューナユニットはこのトーン信号を３種類搭載しており、状況により切り換えることができます。

● トーンスイッチの設定のしかた

1. チューナユニットの増設のしかたを参考にして、チューナユニットを引き出してください。

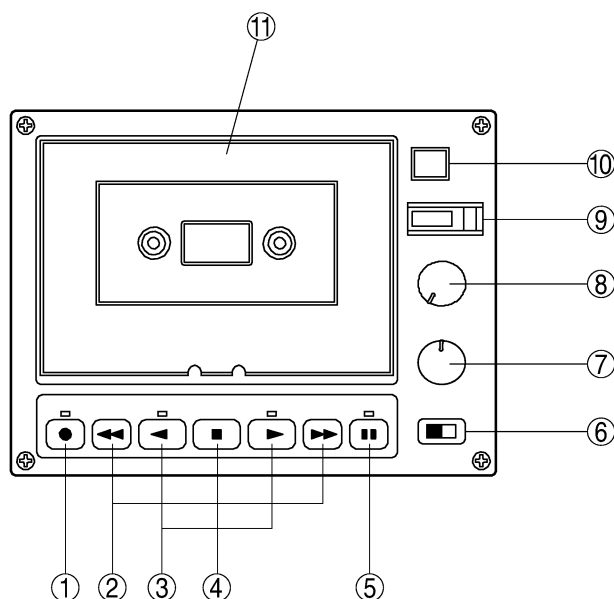
2. チューナユニットのふたを外してください。

3. 基板上の２列のトーンスイッチをボールペンの先などで設定してください。トーン信号の周波数はスイッチ位置により下表のように変化します。

スイッチ位置	1 2 OFF	1 2 OFF	1 2 OFF	1 2 OFF
トーン信号周波数	B1,B3 グループ 32. 768 kHz B2,B4 グループ 32. 718 kHz B5,B6 グループ 32.818 kHz	すべてのグループ 32.718 kHz	すべてのグループ 32.768 kHz	すべてのグループ 32.818 kHz

ご注意

- トーンスイッチを切り換える際、内部の調整箇所は絶対に回さないでください。
- ワイヤレスマイクとチューナユニットは、グループ、チャンネル番号およびトーン信号の周波数がそれぞれ一致しないと正しく受信できません。
- お買い上げの際はトーンスイッチの位置は1､2ともに「OFF」の位置に設定しています。
- この機能は、トーンスイッチのついているワイヤレスマイクとチューナユニットの組み合わせでのみ使用できます。トーンスイッチのついていない機器の組み合わせでは、スイッチ1､2ともに「OFF」の位置で使用してください。

カセットデッキの使いかた

■ 各部の名称とはたらき

① 録音ボタン〔●〕および録音状態表示灯（赤色）
このボタンを押すと録音待機状態になり、一時停止状態表示灯が橙色に、録音状態表示灯が赤色に点灯し、録音走行方向を示す再生方向表示灯が緑色に点滅します。この状態で、点滅して走行方向を示している再生ボタンを押すか、一時停止ボタンを押すと録音が開始されます。

② 早送り・巻き戻しボタン〔 ◀◀ / ▶▶ 〕
このボタンを押すと矢印の方向にテープが早送りまたは巻き戻しされます。

③ 再生ボタン〔 ◀ / ▶ 〕および走行方向表示灯（緑色）
このボタンを押すと矢印の方向にテープが走行し、再生が開始されます。

④ 停止ボタン〔■〕
このボタンを押すとテープの走行が停止します。

⑤ 一時停止ボタン〔 ▌▌ 〕および一時停止表示灯（橙色）
このボタンを押すと早送りおよび巻き戻しを除き、テープの走行が一次停止します。

⑥ 走行モードスイッチ
テープの走行モードを切り換えるスイッチです。3つのモード（ ⇄ 、 ⊃ 、 ⟳ ）から1つを選択します。

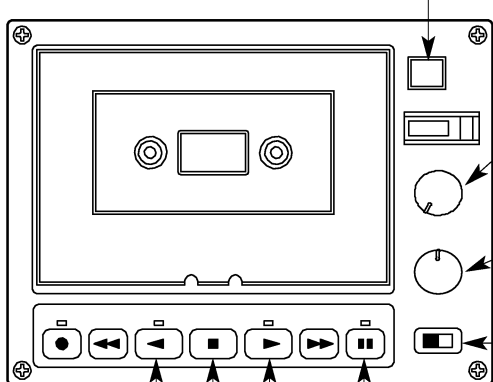
⑦ テープスピードつまみ〔スピードコントロール〕
テープのスピードを変えたいときに調節します。つまみの印が上を示しているときが標準速度です。左に回せば遅くなり、右に回せば早くなります。この調節は再生のときのみはたらきます。

⑧ テープ音量つまみ〔テープ音量〕
カセットテープの音量を調節します。

⑨ テープカウンタおよびリセットボタン
テープのカウンターはテープの進みぐあいを示します。右方向に走行すると数字が増え、左方向に走行すると数字は減ります。右側のリセットボタンを押すと数字は「000」に戻ります。

⑩ 取り出しボタン
　このボタンを押すとカセットホルダが開き、カセットテープを出し入れできます。

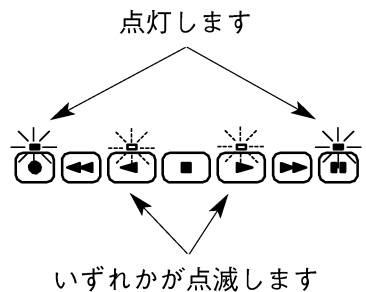
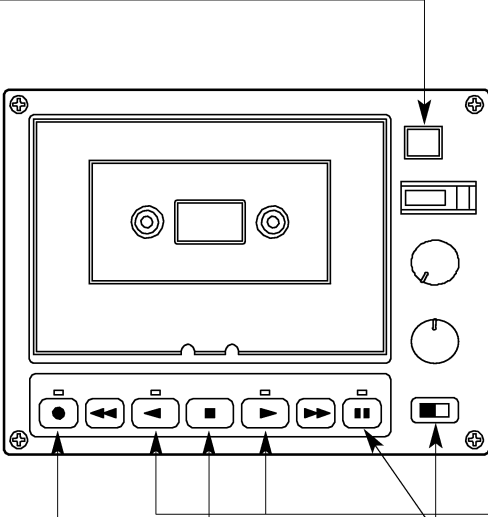
ご注意

テープ走行中は取り出しボタンを押さないでください。テープを取り出すときは、停止ボタンを押してテープの停止を確認してから、このボタンを押してください。

⑪ カセットホルダ
　カセットテープの収納部です。

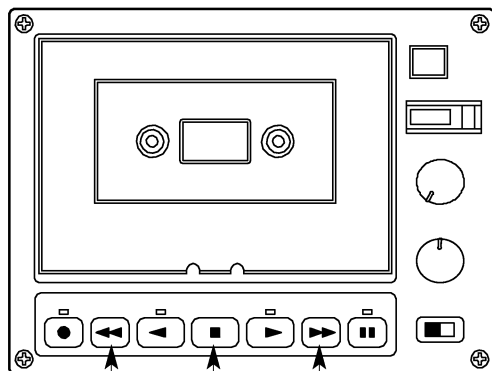
ご注意

- 電源スイッチを入れたとき、初期設定のため1秒間程度カセットデッキの動作音がすることがあります。
- カセットデッキの動作中に衝撃を与えないでください。誤動作することがあります。
- バッテリ電源で使用のときは、バッテリが消耗すると誤動作することがあります。

■ 再生のしかた

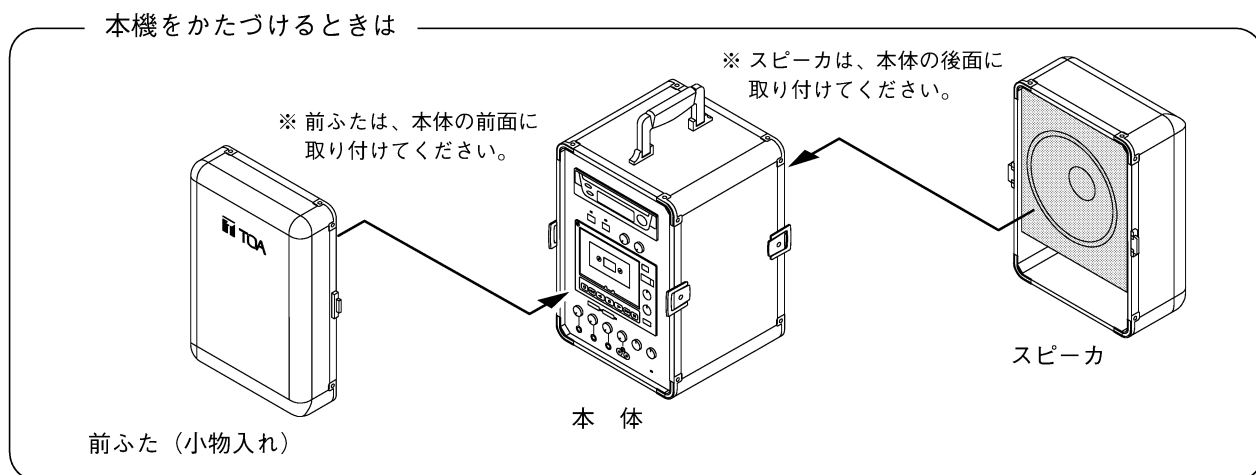
1. 電源スイッチを「入」にしてください。
2. 取り出しボタンを押し、カセットテープを入れてください。
カセットテープはテープの見える面を下にして入れてください。
3. テープ走行モードスイッチで走行モードを選択してください。
走行モードについては26ページをご覧ください。
4. 希望する方向の再生ボタン〔◀ または ▶〕を押してください。
テープが再生を開始し、走行表示灯が点灯して、テープがどちらの方向に走行しているかを示します。
5. テープ音量つまみ〔テープ音量〕を調節してください。
6. テープスピードつまみ〔テープスピード〕を左右に回すと、再生スピードを調節できます。
7. 再生途中で一時停止するときは、一時停止ボタン〔❚❚〕を押してください。
再生待機状態になります。一時停止表示灯が点灯し、走行表示灯が点滅します。再び再生するときは、一時停止ボタンまたは点滅している方向の再生ボタンを押します。
8. 再生を止めるときは停止ボタン〔■〕を押してください。テープ走行が停止します。

ご注意

- 再生中に一時停止ボタン〔❚❚〕を押して、一時停止状態が約10分以上続くと、自動的に停止状態になります。
- テープ走行中に電源スイッチを切らないでください。テープが取り出せなくなります。
このときは、もう一度電源スイッチを入れ、取り出しボタンを押してください。

■ 巻き戻しと早送りのしかた

1. 希望する方向の早送りまたは巻き戻しボタン〔◀◀ / ▶▶〕を押してください。
直前に再生または録音していた方向と同じ方向の矢印ボタンを押すと早送りになります。また逆の方向の矢印ボタンを押すと巻き戻しになります。

2. 早送りまたは巻き戻しを止めたいときは停止ボタン〔■〕を押してください。

ご注意

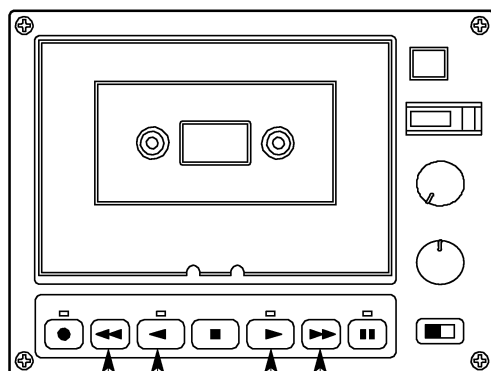
- 早送りまたは巻き戻し中に再生ボタンを押すと、テープが巻き込まれることがありますので停止ボタンを押してから再生ボタンを押してください。
- テープの再生中に早送りまたは巻き戻しボタンを押すと、頭出し選曲モード（☞ P. 25）になります。
- 録音中は早送りまたは巻き戻しボタンは働きません。
- テープの終わりまで早送りまたは巻き戻しをすると、走行モードの選択にかかわらず自動停止します。
- カセットテープは磁気を利用した録音方式ですので本機をかたづけるときは、下図のとおりスピーカ部を本体の後面パネル側に取り付けてください。
  カセットデッキの中にテープを入れたまま、スピーカ部を本体の前面パネル側に取り付けて長時間放置すると、録音内容の質が劣化することがあります。

■ 録音のしかた

このカセットデッキには自動録音レベル調整機能を内蔵していますので、録音レベルの設定は不要です。

ご注意

- 録音は入力されている音がすべてミキシングされて録音されます。
- カセットテープの誤消去防止用つめが折れている場合は録音できません。
- 録音の前にテープカウンタのリセットボタンを押して「000」の状態にしておくか、テープカウンタの数字をメモしておくと、録音を開始した位置を知ることができます。

■ 頭出し選曲のしかた

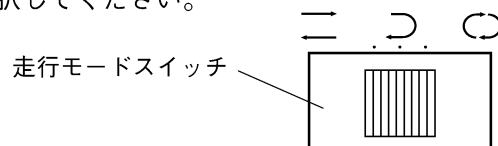
頭出し選曲は録音されている各曲間の無録音部分を自動的に見つけ出し、曲の始めから再生する機能です。

ご注意

- 頭出し選曲は一曲のみです。
- 頭出しには3秒以上の無録音部分がテープに必要です。5秒以上の無録音部分を作ることをお勧めします。
- 無録音部分を作るには、録音中に各入力音量つまみを左側に回しきり、「0」の位置で録音を続けます。
- 曲中に特にレベルの低いところがあるテープでは、その部分を無録音部分として再生を始めることがあります。
- 再生の一時停止状態から巻き戻しまたは早送りボタンを押して頭出し選曲を行うと、曲の頭を見つけた後、再び一時停止状態となります。

■ 走行モードについて

3つのモードのテープ走行があります。

1. 一方向モード〔⇄〕　：片道だけ再生や録音をし、テープの終わりで停止します。
2. 往復モード〔⊃〕　：往復の再生や録音をし、帰りのテープの終わりで停止します。
3. エンドレスモード〔⟳〕：連続して再生します。ただし録音時は往復モードと同じ動作となります。

走行モードスイッチを使用して、希望するテープ走行モードを選択してください。

以下の表は走行モードスイッチと走行ボタン操作による動作を示しています。

● 再生のとき

走行モード	操作ボタン	動作
⇄	▶	1. テープ走行 ▶ → 2. テープの終わりで停止
⇄	◀	1. テープ走行 ◀ → 2. テープの終わりで停止
⊃	▶	1. テープ走行 ▶ → 2. テープの終わりで自動反転 ↓ 3. ◀ テープ走行 ← 4. テープの終わりで停止
⊃	◀	1. テープ走行 ◀ → 2. テープの終わりで自動反転 ↓ 3. ▶ テープ走行 ← 4. テープの終わりで停止
⟳	▶	1. テープ走行 ▶ → 2. テープの終わりで自動反転 ↓ 3. ◀ テープ走行 ← 4. テープの終わりで自動反転 ↑
⟳	◀	1. テープ走行 ◀ → 2. テープの終わりで自動反転 ↓ 3. ▶ テープ走行 ← 4. テープの終わりで自動反転 ↑

● 録音のとき

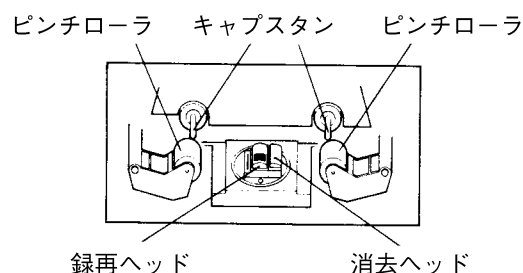
走行モード	操作ボタン	動作
⇄	● ▶	1. テープ走行 ▶ → 2. テープの終わりで停止
⇄	● ◀	1. テープ走行 ◀ → 2. テープの終わりで停止
⊃ ⟳	● ▶	1. テープ走行 ▶ → 2. テープの終わりで自動反転 ↓ 3. ◀ テープ走行 ← 4. テープの終わりで停止
⊃ ⟳	● ◀	1. テープ走行 ◀ → 2. テープの終わりで自動反転 ↓ 3. ▶ テープ走行 ← 4. テープの終わりで停止

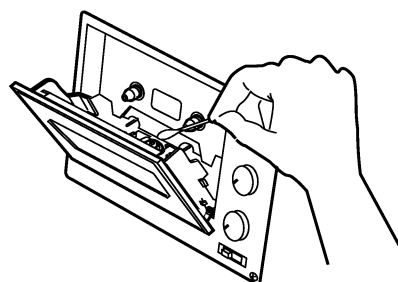
お手入れのしかた

● ヘッド、キャプスタン、ピンチローラの清掃

カセットデッキを長時間使用すると、ヘッド、キャプスタン、ピンチローラが汚れ、音が小さくなったり、高音が出なくなったり、回転ムラが起こったりすることがあります。定期的に市販のクリーニングテープでクリーニングするか、アルコールを含ませた綿棒で清掃してください。

ご注意

ドライバの先や金属棒などは絶対に使用しないでください。

綿棒で清掃する場合は、本体の電源スイッチを切り、右図のようにカセットホルダを開けて行ってください。

※ カセットホルダを取り外すことはできません。

● ヘッドの消磁

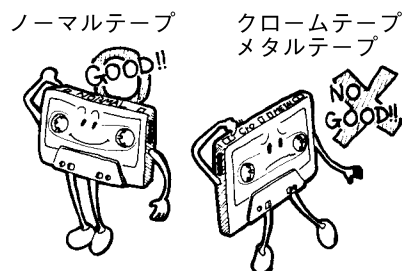
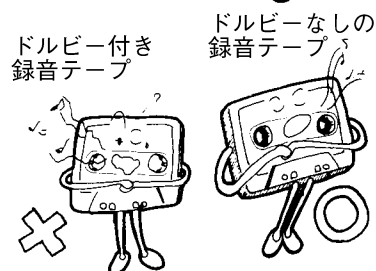
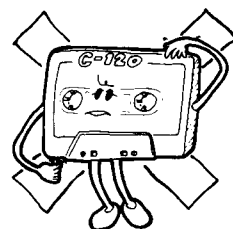
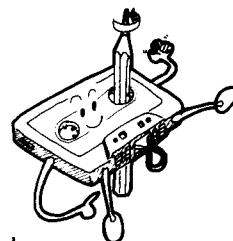
カセットデッキを長時間使用すると、ヘッドが磁気を帯び、大切な録音内容に雑音が入ったり、消えてしまったりすることがあります。市販のヘッドイレーサを用いて、定期的にヘッドの消磁を行ってください。

ご注意

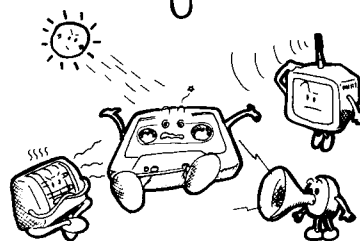
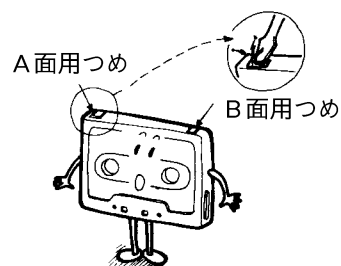
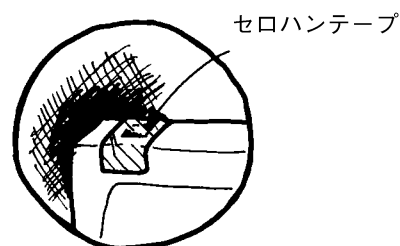
ヘッドにイレーサ以外の金属物や磁石を近づけないでください。

カセットデッキの機構部に注油すると故障の原因となります。
絶対に注油しないでください。

カセットテープについて

- **本機はノーマルテープ専用です。**
  クロームテープやメタルテープは使用しないでください。
  ノーマルテープ以外を使用すると、聞きづらい音になったり、録音時に前の音が消えないことがあります。

- **ドルビーなどの雑音低減回路を入れて録音されたテープを再生すると、聞きづらい音になることがあります。**
  雑音低減回路を入れないで録音されたテープを使用してください。

- **C-120テープはご使用にならないでください。**
  テープが非常に薄く弱いため回転部に巻き込むことがあります。
  C-46、C-60またはC-90などを使用してください。

- **テープはたるみをとってからご使用ください。**
  たるんだまま使用すると、テープが切れたり巻き込むことがあります。たるんでいるときは、右図のように鉛筆などでたるみをとってから使用してください。

- **カセットテープの保管場所にご注意ください。**
  直射日光の当たる所、暖房機器の近くなどの温度の高い所、湿気の多い所、またはテレビやスピーカの近くなど磁気のある所での保管は避けてください。テープが変質したり、録音が消えたり、雑音が入ることがあります。

Ａ面用つめ

Ｂ面用つめ

- **カセットテープの誤消去防止について**
  カセットテープは大切な録音内容を間違って消去してしまわないように誤消去防止つめがついています。録音した音を消したくないとき、つめをドライバの先などで折ってください。また、カセットテープのつめが折られていると再録音ができません。つめが折られているテープに録音したいときにはセロハンテープなどを貼ってください。

- **エンドレステープはご使用にならないでください。**
  エンドレステープを使用すると、テープが破損するだけでなく、テープ巻き込みなどにより、本機が故障する原因となります。

著作権について

- テレビ、ラジオ放送、レコード、CD等から録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- したがって、それらから録音したりテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請その他の手続きについては、「日本音楽著作権協会」(JASRAC)の本部または最寄りの支部へお尋ねください。

社団法人　日本音楽著作権協会	
● 本部 〒151-8540　東京都渋谷区上原3-6-12	TEL (03) 3481-2121（大代表） FAX (03) 3481-2156 HOME PAGE http://www.jasrac.or.jp
● 北海道支部（北海道） 〒060-0001 札幌市中央区北1条西3-2 大和銀行札幌ビル	TEL (011) 221-5088 FAX (011) 221-1311
● 盛岡支部（岩手、青森、秋田） 〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通15-20 ニッセイ盛岡駅前ビル	TEL (019) 652-3201 FAX (019) 652-4010
● 仙台支部（宮城、山形、福島） 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-1-7 仙台三和ビル	TEL (022) 264-2266 FAX (022) 265-2706
● 長野支部（長野） 〒380-0828 長野市南千歳2-12-1 日本団体生命長野ビル	TEL (026) 225-7111 FAX (026) 223-4767
● 大宮支部（埼玉、栃木、群馬、新潟） 〒331-0852 大宮市桜木町1-7-5 ソニックシティビル	TEL (048) 643-5461 FAX (048) 643-3567
● 上野支部（台東・文京・荒川・葛飾・足立・北区、茨城） 〒110-0005 東京都台東区上野2-7-13 交通公社・安田火災上野共同ビル	TEL (03) 3832-1033 FAX (03) 3832-1040
● 東京支部（千代田・中央・港・墨田・江東・品川・大田・江戸川区、島しょ部、千葉） 〒104-0061 東京都中央区銀座1-15-6 共同ビル銀座1丁目	TEL (03) 3562-4455 FAX (03) 3562-4457
● 西東京支部（新宿・目黒・世田谷・渋谷・中野・杉並・豊島・板橋・練馬区） 〒160-0022 東京都新宿区新宿5-17-15 新宿中央ビル	TEL (03) 3232-8301 FAX (03) 3232-7798
● 東京イベント・コンサート支部（東京都、千葉、茨城、山梨） ※コンサートやイベント等における演奏・上映等 〒160-0022 東京都新宿区新宿5-17-5 新宿中央ビル	TEL (03) 5286-1671 FAX (03) 5286-1670
● 立川支部（東京都市部・郡部〈島しょ部を除く〉、山梨） 〒190-0012 立川市曙町2-22-20 立川センタービル	TEL (0425) 29-1500 FAX (0425) 29-1515
● 横浜支部（神奈川） 〒231-0005 横浜市中区本町1-3 綜通横浜ビル	TEL (045) 662-6551 FAX (045) 662-6548
● 静岡支部（静岡） 〒420-0857 静岡市御幸町11-30 エクセルワード静岡ビル	TEL (054) 254-2621 FAX (054) 254-0285
● 中部支部（愛知、岐阜、三重） 〒450-0002 名古屋市中村区名駅2-45-7 松岡ビル	TEL (052) 583-7590 FAX (052) 583-7594
● 北陸支部（石川、富山、福井） 〒920-0961 金沢市香林坊2-3-25 金沢日産生命ビル	TEL (0762) 21-3602 FAX (0762) 21-6109
● 京都支部（京都、滋賀、奈良） 〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町8 京都三井ビル	TEL (075) 251-0134 FAX (075) 251-0414
● 大阪支部（大阪南部、和歌山） 〒542-0081 大阪市中央区南船場4-3-11 豊田ビル	TEL (06) 6244-0351 FAX (06) 6244-1970
● 大阪北支部（大阪北部） 〒542-0081 大阪市中央区南船場4-3-11 豊田ビル	TEL (06) 6244-7077 FAX (06) 6244-1970
● 神戸支部（兵庫） 〒650-0024 神戸市中央区海岸通6番地 建隆ビルII	TEL (078) 322-0561 FAX (078) 322-0975
● 中国支部（広島、岡山、山口、鳥取、島根） 〒730-0021 広島市中区胡町4-21 朝日生命広島胡町ビル	TEL (082) 249-6362 FAX (082) 246-4396
● 四国支部（香川、徳島、高知、愛媛） 〒760-0023 高松市寿町2-2-10 住友生命高松寿町ビル	TEL (0878) 21-9191 FAX (0878) 22-5083
● 九州支部（福岡、大分、佐賀、長崎、熊本） 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビル	TEL (092) 441-2285 FAX (092) 441-4218
● 鹿児島支部（鹿児島、宮崎） 〒892-0842 鹿児島市東千石町1-38 アイムビル	TEL (099) 224-6211 FAX (099) 224-6106
● 那覇支部（沖縄） 〒900-0015 那覇市久茂地1-3-1 久茂地セントラルビル	TEL (098) 863-1228 FAX (098) 866-5074

故障とお考えになる前に

<table>
<tr><th colspan="2">症　状</th><th>点検項目</th><th>処　置</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">電源スイッチを「入」にしても電源表示灯が点灯しない。
(電源が入らない。)</td><td>〔AC電源で使用のとき〕
電源コードが本体とコンセントに接続されていますか？</td><td>本体のAC電源インレットとコンセントに、電源コードを接続してください。</td></tr>
<tr><td>〔DC12 Vバッテリで使用のとき〕
DC電源の接続コードが本体とバッテリに接続されていますか？</td><td>DC電源の接続コードを確実に接続してください。
※ バッテリの電圧を測って10 V以下でしたら充電済みのバッテリと交換してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">電源表示灯が点滅する。</td><td>〔12 Vバッテリで使用のとき〕
バッテリの充電はされていますか？
バッテリの容量が小さくありませんか？</td><td>完全に充電されたバッテリをお使いください。
長時間お使いのときは、大容量のバッテリに交換してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">音が出ない。</td><td>スピーカが接続されていますか？</td><td>スピーカを確実に接続してください。</td></tr>
<tr><td>音量つまみが「0」になっていませんか？</td><td>音量つまみを右の方向に回してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">ワイヤレスマイクを使用のとき</td><td rowspan="4">受信表示灯が点灯しない。
(受信しない)</td><td>チューナユニットが入っていますか？</td><td>チューナユニットを入れてください。</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスマイクの電源スイッチは「ON」になっていますか？</td><td>ワイヤレスマイクの電源スイッチを「ON」にしてください。</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスマイクの乾電池は消耗していませんか？</td><td>新しい乾電池と交換してください。</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスマイクの周波数（グループとチャンネル）とチューナユニットの周波数（グループとチャンネル）が合っていますか？</td><td>ワイヤレスマイクとチューナユニットの周波数（グループとチャンネル）を同じにしてください。</td></tr>
<tr><td>音が出ない。</td><td>音量つまみが「0」になっていませんか？</td><td>音量つまみを右の方向に回してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">カセットを使用のとき</td><td>テープの再生音が出ない。</td><td>テープ音量つまみが「0」になっていませんか？</td><td>テープ音量つまみを右の方向に回してください。</td></tr>
<tr><td>録音状態にならない。</td><td>誤消去防止用のつめが折れていませんか？</td><td>つめの折れているみぞにセロハンテープを貼ってください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">・録音再生音が割れている。
・消去が完全にできない。
・高音が出ない。</td><td>ヘッド、キャプスタンおよびピンチローラが汚れていませんか？</td><td>ヘッド、キャプスタンおよびピンチローラを清掃してください。</td></tr>
<tr><td>テープがよれよれにいたんでいませんか？</td><td>別のテープで再生して、そのテープで問題ない場合は、テープを新しいものと取り換えてください。</td></tr>
<tr><td>・回転ムラがある。
・巻き戻し、早送りが遅い。</td><td>テープにたるみがありませんか？</td><td>テープのたるみを鉛筆などを使用して直してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">カセットテープが取り出せない。
※ テープ走行中に電源を切ったり、バッテリの電圧が下がって、カセット部が止まると、テープが取り出せなくなることがあります。
右の処置を施した後、取り出しボタンを押してください。</td><td>電源スイッチが切れていませんか？</td><td>電源スイッチを入れてください。</td></tr>
<tr><td>〔AC電源で使用のとき〕
電源プラグがコンセントから抜けていませんか？</td><td>電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを入れてください。</td></tr>
<tr><td>〔DC12 Vバッテリで使用のとき〕
バッテリの充電はされましたか？</td><td>AC電源があれば、電源プラグを差し込み、電源スイッチを入れてください。
AC電源がなければ、完全に充電されたバッテリに交換してください。</td></tr>
</table>

症　状		点検項目	処　置
CDプレーヤを使用のとき	コンパクトディスク（CD）が入らない。	すでに、ディスクが1枚入っていませんか？	入っているディスクを取り出してから次のディスクを入れてください。
	ディスクを入れても出てきてしまう。	ディスクがひどく汚れていませんか？	ディスクのクリーニングをしてみてください。 ※「コンパクトディスクの取り扱いかた」（☞ P. 14）をお読みください。
		直射日光が当たるなどして、機器の温度が極端に高くなっていませんか？	風通しの良い日陰に設置して、機器の温度が下がるようにしてください。
		結露していませんか？	ディスクを取り出し、しばらく放置してから使用してください。
	ディスクを入れても音がでない。	スピーカが接続されていますか？	スピーカを確実に接続してください。
		音量つまみが「0」になっていませんか？	音量つまみを時計方向に回してください。
	音が飛んだり、同じところを演奏したりする。	ディスクが不良ではありませんか？	他のディスクを聞いてみてください。良くなれば、ディスクの不良が考えられます。
		ディスクがひどく汚れていませんか？	ディスクのクリーニングをしてみてください。 ※「コンパクトディスクの取り扱いかた」（☞ P. 14）をお読みください。
	音質が悪い。	ディスクの不良ではありませんか？	他のディスクを聞いてみてください。良くなれば、ディスクの不良が考えられます。
		ディスクがひどく汚れていませんか？	ディスクのクリーニングをしてみてください。 ※「コンパクトディスクの取り扱いかた」（☞ P. 14）をお読みください。
		結露していませんか？	ディスクを取り出し、しばらく放置してから使用してください。
	ディスクが取り出せない。 ※ディスクを入れたまま電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたり、DC電源の電圧が低下したりすると、ディスクが取り出せません。右の処置を施した後、イジェクトボタンを押してディスクを取り出してください。	電源スイッチが切れていませんか？	電源スイッチを入れてください。
		〔AC電源で使用のとき〕 電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを入れてください。
		〔DC12 Vバッテリで使用のとき〕 DC電源が電圧低下（10 V以下）していませんか？	AC電源があれば、電源プラグを差し込み、電源スイッチを入れてください。 AC電源がなければ、完全に充電されたバッテリに交換してください。
	ディスクが入っているのに、電源を入れても演奏を開始しない。	ディスクが入った状態で電源スイッチを切ったり、電源コードを抜いたりしていませんか？	CDプレーヤのプレイ・ポーズボタンを押してください。 ※1曲目から演奏を始めます。

仕　様

電　源	AC	100 V、50/60 Hz
	DC	14 V（自動車用12 Vバッテリー）
定格出力	AC	20 W
	DC	20 W
最大出力（AC）		25 W
消費電力	AC	電気用品安全法：32 W、定格出力時：58 W
	DC	最大3.5 A
アンプ部周波数特性		70 ～ 15,000 Hz
アンプ部 S/N		60 dB以上
歪　率		5％以下（定格出力時）
入　力	有線マイク	3回路、−60 dBV、不平衡ホーンジャック、適合マイクインピーダンス600 Ω
	ワイヤレスマイク	2回路：有線マイクと切換式、1回路：ダイバーシティチューナ内蔵
	予　備	−20 dBV、10 kΩ、不平衡、RCAピンジャック×2
出　力	スピーカ	20 W、4 Ω、ホーンジャック
	ライン	0 dBV、600 Ω、不平衡ホーンジャック
アンテナ方式		ホイップアンテナ
チューナ ユニット	受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
	受信感度	10 dBμV以下（S/N 25 dB、1 kHz変調±4.8 kHz偏移）
	スケルチ感度	12 dBμV
	S/N	60 dB以上（60 dBμV入力、±4.8 kHz偏移、Aカーブ使用）
スピーカ部形式		20 cmメカニカル2ウェイ、ダイナミックスピーカ、変形バスレフレックス
カセット デッキ部	トラック方式	2トラック、1チャンネル、モノラル
	録音方式	交流バイアス方式
	テープ速度	4.76 cm/sec、可変範囲±10％
	ワウフラッタ	0.2 WRMS
	早送り・巻き戻し時間	約100秒
CD プレーヤ部	ディスク	コンパクトディスク
	読み取り方式	非接触光学式読み取り（半導体レーザ使用）
	エラー訂正方式	クロスインターリーブリードソロモンコード
	チャンネル数	2チャンネル
	復号化（D/A）	16 bit直線
	ダイナミックレンジ	85 dB
	スピードコントロール	±12.5％、2.5％ピッチ、基準値±5段階
使用温度範囲		0℃～+40℃
寸　法		244（W）×383（H）×412（D）mm
仕上げ		パネル：黒（3分艶）、ケース：シルバー（表面アルミエンボス加工）
質　量		15 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード ……………………………………… 1
アンテナ …………………………………………… 2
スピーカスタンド金具 ……………………… 1
カラーマーク（6色） ………………………… 1
チャンネル設定ドライバ …………………… 1

商品の価格、在庫、修理およびカタログのご請求については、取扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOAインフォメーションセンター
商品や技術など､お問い合わせにお応えします。
受付時間　9：00 ～ 17：00（日曜・祝日除く）
フリーダイヤル（無料電話）
TEL. 0120-108-117
〒665-0043 宝塚市高松町2番1号
TEL.（0797）72-7567
FAX.（0797）72-1090

133-12-609-3D